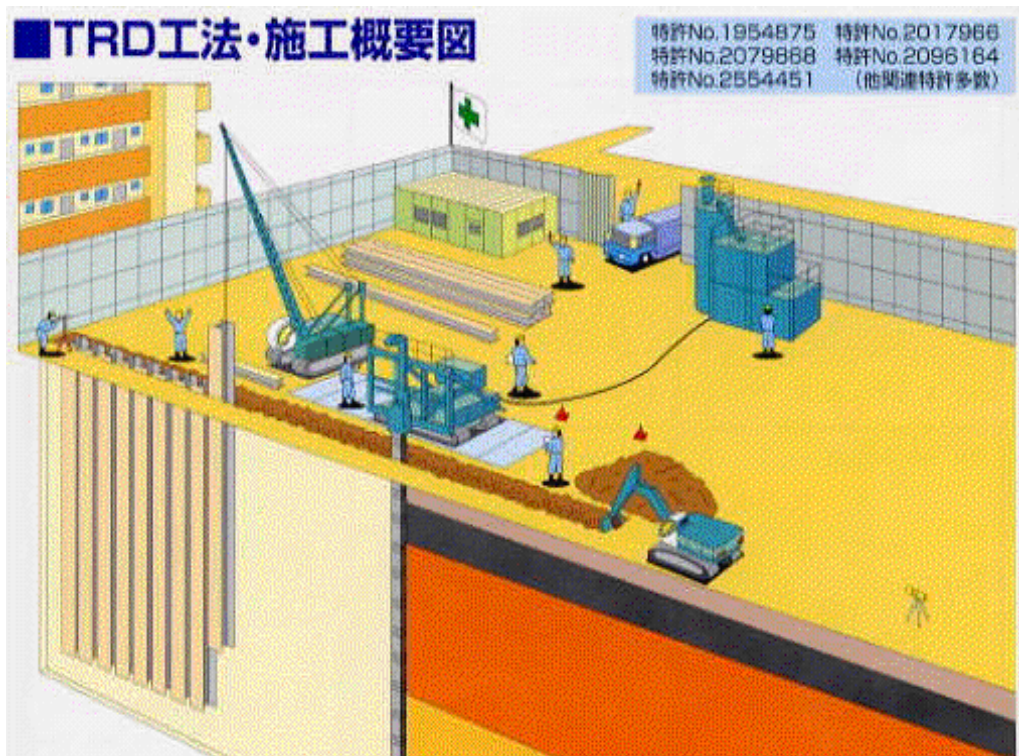


TRD工法(ソイルセメント地中連続壁工法)

施工方法



地盤に挿入したチェーンソー型のカッターをベースマシンと接続し、横方向に移動させて、溝の掘削と固化液の注入、原位置土との混合・攪拌を行い、地中に連続した壁を造成するものである。H鋼などの芯材を挿入し、地下掘削時の土留め止水壁として適用する。さらに、液状化対策や地盤の補強、地下水の遮断など、様々な用途への応用も可能である。

TRD機



原理

地盤中に固化液・掘削液を供給し、強制的に原位置土と混合攪拌することにより地中に連続した壁を造成する。従来の施工機による縦掘削方式と異なり、TRD工法は最初に所定深さまで建込んでカッターポスト(造成壁面1辺に1箇所)の横引掘削方式によりソイルセメント壁を造成する。掘削と攪拌混合との機能を兼ね備えたカッタービットによる掘削機構、及び土中での固化液・掘削液の混合攪拌機能から成り立っている。

当社施工事例

企業者	愛知県道路公社
発注者	前田・太平・七番特定建設工事共同企業体
工事名称	道路建設工事(土工・横断14-1号)
工期	H14.10.10~H15.3.5
施工延長	619.1m